

平成30年度 第4回（通算第13回） 日立市立学校適正配置検討委員会 会議録

日 時	平成30年12月17日（月） 午後2時から3時20分まで
場 所	日立市役所 504会議室
出席人数	（1）委員 20人（5人欠席） （2）事務局 教育部長、学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員 計25人
議 事	（1）前回会議録の確認 （2）保護者懇談会の意見一覧について （3）十王・豊浦・日高支所管内の小・中学校の現状について
そ の 他	（1）次回日程 平成31年1月21日（月）午後2時から
協議内容	<p>（委員長） 前回の会議で確認したとおり、直前の会議の会議録をこの場で確認をしたいと思います。少し時間を取りますので、ご自分の発言内容などの確認をお願いいたします。</p> <p>いかがでしょうか。修正等が必要な個所に気づかれた方はいらっしゃいますか。 ないようですので、後日、ホームページで公開ということになります。</p> <p>では、次第の「3 報告」に進みます。 保護者懇談会については、前回の会議でも報告を受けましたが、会場からの意見や質問を内容ごとに分類したということなので、改めて、事務局から報告があります。</p> <p>（事務局） それでは、報告いたします。 保護者懇談会の開催結果については、前回の検討委員会において、最終の報告をした際に、参加者からの主なご意見についても抜粋したものを併せて報告いたしました。今回、いただいたご意見全体のとりまとめが終わりましたので、本日、冊子を配布させていただきました。表紙に『保護者懇談会で寄せられた意見』と書かれた冊子になります。</p> <p>いただいたご意見のまとめ方につきましては、学校ごとではなく、表紙目次のとおり、内容によって15の項目に分類しました。</p> <p>ページを1枚めくっていただきますと、実際の一覧表が出ておりますが、表の中ほど、分類1と書かれた部分が、この目次の15項目に対応しております。</p> <p>個別の説明につきましては、時間の都合上、割愛させていただきますが、ご提案も含め、たくさんのご意見をいただくことができましたので、是非、検討</p>

の参考にしていただければと思います。説明は、以上です。

(委員長)

少し時間を取りますので、関心のあるところなどに目を通していただいて、ご質問等があればお受けします。

いかがでしょうか。

(委員)

表の中の「住まい」は、通っている学校ではなく、住んでいる所ということか。

(事務局)

「住まい」は、実際に住んでいる小学校区であり、発言者のお子さんが実際に通っている学校とは、必ずしも一致していない。

(委員長)

よろしいですか。分量の多いものですが、今後の検討の参考としていくものですので、時間のある時に読んでおいていただければと思います。

今回の意見は、学校の再編に関わらず、行政の施策に対する貴重な意見になると思います。

では、次第「4 協議」に移ります。

資料が多いので説明時間が長くなると思います。

では、説明をお願いします。

(事務局)

それでは、資料1に基づき、十王・豊浦・日高支所管内にあります、小中学校の基本情報について説明いたします。

資料の構成、作り方につきましては、前回の「南部地区」と同じ構成で作成しております。

また、エリアの分け方ですが、前回と同様、支所を単位とし、支所管内にある小中学校の基本情報をまとめております。

この後も、本庁、多賀支所を単位に市内全体の学校の状況を確認していく予定ですが、あくまでも、支所管内で見たときには、このような状況になっているということでお考えいただければと思います。

従いまして、実際に再編を検討する場合には、支所管内に限られるものではなく、例えば近隣の地域も含めて検討していくこととなりますので、そのようにお考えいただければと思います。

それでは、最初に1ページ、「1 児童生徒数」について説明いたします。

まず、小学校の状況ですが、表にありますとおり、3つの支所管内に5つの小学校がございます。

学校の位置関係については、資料 2 - 1 が、このエリア全体の小学生の居住分布を載せた資料となっており、この中に小中学校の記載があります。

印刷の関係で一部見にくい部分があるかもしれませんが、図面上の○(白丸)が小学校、■(黒の四角)が中学校を示しておりますので、基本情報と併せて、参考にしていただければと思います。

それでは、資料 1 の基本情報に戻ります。

5月1日現在の児童数は、管内全体で2,459人です。

学校別にみますと、山部小学校については、2学年と3学年、4学年と5学年が複式学級となっています。

また、楡形小学校は全校で889人おり、現在、児童の数が市内で一番多くなっています。

ちなみに、市内で2番目に児童数が多いのは田尻小学校です。

豊浦小学校、日高小学校も児童数が500人を超えており、市内でも他の地域に比べると児童数が多いエリアですが、これが20年後の推計では、エリア全体で1,288人まで児童が減少していく見込みとなっています。

学校別の状況については、下の棒グラフで比較していただくとわかりやすいと思いますが、目指す学校規模(各学年2学級以上)については、いずれの小学校も、推計上は当面維持できる見込みですが、児童数は、現在と比較すると、それぞれ半数近くまで減少することが見込まれております。

次に2ページの「中学校生徒数」をご覧ください。

中学校については、同支所管内には3校ありますが、最初に「小学校との組み合わせ」についてご覧いただきたいと思っております。

資料の4ページをご覧ください。

4ページの一番上に小中学校の組み合わせを載せています。

田尻小学校は、中学校に進学する時には、日高中学校と滑川中学校に分かれて進学する状況となっています。なお、滑川中学校、滑川小学校については、両校とも本庁管内となりますので、児童生徒数等の情報は本日の資料には含まれておりません。小中学校の組み合わせについては以上です。

2ページにお戻りください。

5月1日現在で、豊浦中学校は、生徒数が266名ですが、学級数は、1年生が2学級となっており、目指す学校規模(1学年3学級)を下回っております。

全体の生徒数で見た場合には、下の棒グラフにありますように、豊浦中学校につきましても、縦の点線で示した「各学年3学級の最低人数243人」を上回っております。

実際には、このように学年によって、児童生徒数にバラつきがありますので、20年後の推計で算出している学級数の見込みについても同様に、9学級となっているところも、一律に各学年3学級とはならない場合があります。

児童生徒数に関する説明は、以上です。

続きまして通学に関する情報について説明いたします。

資料1の3ページをご覧ください。

まず、「(1) 学区内の最長距離」ですが、各学校の最長距離は表の「道のり」に記載のとおりです。この距離は、直線上の距離ではなく、実際の通学距離を示しております。

また、「地点」のAからEにつきましては、資料2-2から資料2-7の小学校区ごとの「居住分布図」にそれぞれ記載していますので、ご覧ください。

最初に資料2-2、山部小学校の児童の居住分布図をご覧ください。

Aの地点が最長距離となっており、実際の距離は、さきほど「道のり」のところでご覧いただいたように、1.5 kmとなっています。

山部小学校を中心に描かれている3つの円につきましては、前回は説明したとおり、現在、日立市内全体で実際に通学している児童の通学距離を、遠い順に3番目まで示したもので、小学校を中心に半径2.0 km、2.5 km、2.8 kmの3つのパターンで示しています。

国の基準では、小学生は4 kmという基準がございますが、より実態に合わせた形で示しています。

資料2-3をご覧ください。楡形小学校の居住分布図となります。

十王中学校の下側、特に点が集中している部分は、記載があるとおりに、城の丘団地に居住している児童を表しております。分布図の中で色の濃い点と薄い点がありますが、濃い点は、例えば、アパートなど同じ住所に児童が複数居住しているようなケースを表しております。

なお、楡形小学校の最長通学距離は、図面の右上B地点、いぶき台団地から通学している児童で、通学距離は3.5 kmとなります。直線距離では2.8 kmに該当している方です。

また、図面の左手、十王ダムから先に流れている十王川沿いの点については、高原地区から通われているお子さんです。

平成19年3月に高原小学校が廃校となり、楡形小学校に統合され、楡形小学校には、現在、路線バスを利用して通っております。

以下、資料2-4は豊浦小学校の居住分布図、資料2-5は、日高小学校の居住分布図、資料2-6は田尻小学校の居住分布図ですが、時間の都合上、説明は割愛いたします。

居住分布図の説明は、以上です。

資料1、学校基本情報の3ページにお戻りください。

次に「(2) 自転車通学」の状況についてご覧ください。

表にあるとおり、十王中学校では、468名中、約2割に当たる95名の生徒が自転車通学をしています。また、豊浦中学校では、16名の生徒が自転車通学をしています。

自転車通学については、現在、中学校のみ、学校長の裁量で認めています。

ちなみに、国の基準では中学校の通学距離は6 kmですが、日立市内における中学生の通学距離の最長は、久慈中と十王中のいずれも直線距離で4.2 kmとなっております。(自転車だと約25分かかる距離です。)

十王中学校では、いぶき台団地から通学している生徒が最長距離となっています。

自転車通学の説明は、以上です。

次に、「(3) 危険エリア」についてご覧ください。

「津波ハザードマップ」、「洪水ハザードマップ」、「土砂災害ハザードマップ」を添付していますので、資料をご覧ください。

学校の再編を検討するに当たっては、様々な要素が関わってまいりますので、委員の皆様には、可能な範囲で、できるだけ多くの情報をお示しし、学校の状況を知っていただきたいと考え、このハザードマップを用意いたしました。学校によっては、一部が警戒区域にかかっているようなケースもありますが、あくまでも現状を知っていただくための資料ということでご覧ください。

当該エリアでは、津波及び洪水については、各学校とも浸水区域から外れておりますが、土砂災害については、十王中学校と山部小学校が一部警戒区域にかかっています。ハザードマップの説明は、以上です。

資料1、4ページをご覧ください。

「3 その他」について説明いたします。

「(1) 小中学校の組み合わせ」は、先程、中学校の生徒数の説明のところで一度ご覧いただきましたので、説明を省きます。

次に「(2) 部活動」をご覧ください。

十王中学校、豊浦中学校、日高中学校の部活動の状況をまとめた表ですが、部活動の種類が多いことから、左上の野球部から2段目右下の校外活動まで、2段に分けて表をまとめております。

それぞれの中学校の活動状況については、ご覧のとおりです。

表の中の黒丸は、学校単独では部員数が足りず、他の中学校と合同で活動しているものを表しています。

日高中の野球部は部員数16人ですが、3年生が抜けて新人戦において合同チームとなったため、黒丸で表示しています。

次に「(3) 学校の校舎と敷地」について説明いたします。

豊浦小学校については、現在、校舎の改築工事が行われており、来年の12月竣工の予定です。

また、日高小学校についても、来年度から校舎の改築工事を予定しており、記載のとおり、平成33年2月に竣工を予定しています。

日高中学校は平成23年に校舎が新しくなっています。

また、資料にはありませんが、借地の状況については、山部小学校と楡形小学校には借地はありませんが、その他の6校については、いずれも借地があります。

続いて「(4) 未就学児の居住状況」について説明いたします。

住民登録情報をもとに、当該エリア内の0歳から5歳までの未就学児の人数

を、小学校区ごとに表にまとめたものです。

6年後の2024年になると、現在の小学1年生が小学校を卒業し、今の0歳児が小学校に入学しますので、今の小学生と未就学児が完全に入れ替わるタイミングとなります。

平成30年度比の部分につきましては、今の児童数と比較したときに、単純にどのくらい減るのか、その減少率を出したものです。

なお、現在の児童と未就学児の居住分布を比較した表を2-7に添付していますので、参考にさせていただければと思います。

上が今の小学生の居住分布、下が今の未就学児の居住分布を表しております。

先程の表で減少率の高かった楡形小については、城の丘団地のあたりが少しまばらになっているのがお分かりいただけるのではないかと思います。

只今、ご覧いただいた未就学児のデータについては、住民票の異動によって今後変動します。現時点での推計でございますので、あくまでも、参考としていただければと思います。

資料の5ページにお戻りください。

最後に「(5) 地域の意見」についてご覧いただきたいと思います。

これまでに実施した市民アンケートの結果、保護者懇談会、地域懇談会で皆様からいただいたご意見の中から、当該エリアに関連した部分を抜粋して載せております。

まず、市民アンケートの結果についてですが、「あなたの世帯のお子さんが通学している学校の児童生徒数についてどう感じているか」との設問で、山部小学校では、「もっと多い方がよい」との回答が多かったのに対し、楡形小学校は、「もっと少ない方がよい」との回答が7割を超える結果となりました。その他の学校については、「ちょうどよい」という結果になりました。

また、「統合について、どのように感じているか」との問いには、「学区の見直しにより学校間の児童生徒数を調整できない場合には、統合もやむを得ない」との回答が、いずれの学校においても多いという結果が出ました。

懇談会での意見については、7ページが「保護者懇談会」、8ページが「地域懇談会」で出された意見を掲載しましたので、参考にさせていただければと思います。

いただいたご意見については、内容に応じて、「再編」、「通学」、「スケジュール」、「その他」ということで、それぞれ分類いたしました。また、ポイントと思われる箇所には、アンダーラインを付しておりますので、参考にさせていただければと思います。

次に9ページをご覧ください。

「4 基本方針から見た北部各支所管内の学校数」について、参考までに説明いたします。

「(3) 学級編制」ですが、これは上の(1)、(2)を見ていただく際の参考として載せております。

まず、「(1) 小学校」をご覧ください。

当該エリア内には小学校が5校ありますが、20年後の児童数の推計は、全体で1,288人となっています。

この児童数1,288人を基本として、1学年2学級を維持するために必要な最低必要数236人で割り返すと5.5校となり、これよりも学校数が多くなれば、基準を下回り、逆に学校数が少ないほど基準をより上回ることとなります。これを踏まえて、当該エリアでは、何校くらいが適当かを試算いたしました。

例えば、5校の場合は、右側のカッコ書きにありますように、各学年2学級とした場合、1学級当たりの児童数は22人となります。同様に、4校の場合、それ以下の場合で試算しましたが、基本方針からは2校から5校が適当ではないかと思われます。

次に、中学校の場合ですが、同エリア内の生徒数の見込みを、小学生の半数と見込みますと、644人となります。これを最低必要数243人で割り返すと2.7校となります。

小学校と同様に、校数を変えて試算しておりますが、中学校の場合は、3校だと各学年3学級以上の確保が難しくなることから、基本方針からは、1、2校が適当であると思われます。

十王・豊浦・日高支所管内の小・中学校の現状についての説明は、以上です。

(委員長)

ここで休憩を取ります。5分後に再開します。

— (休憩) —

会議を再開します。

十王・豊浦・日高支所管内の学校の状況について説明がありました。ご質問等ございましたらご発言いただきたいと思います。

(委員)

北部地域は、日立市内で最後に統廃合が行われた地域であるが、統合された高原小学校の当時の人数や、その経緯はどのようなものだったか。

(事務局)

(高原小学校の位置を地図で確認)

高原小学校は、平成19年3月に楡形小学校に統合されたが、平成17年度の学校の児童数は13人3学級、平成19年度以降は10人を下回ると予測されて統合に至った経緯がある。

(副委員長)

日立市は、毎月100人単位で人口が減っているが、資料1の5ページ(4)の表には、そのようなことは加味されているのか。

(事務局)

この数字は実数である。平成30年5月1日現在で、各小学校区に住民登録している人数で、今後の人口の出入りは加味していない。

(委員)

資料1、9ページの中学生の人数を小学生の半分になっているのはなぜか。2ページの推計と違っている。

(事務局)

小学生の人数は、20年後の推計を使っている。この児童が中学生になると考えて、6学年の半分(3学年分)を中学生の数として試算した。正確には、23年後の中学生の人数の試算ということになる。

(委員)

20年後の推計があるのだから、同じ数字を使ってはどうか。

(委員長)

資料には、「20年後」という標記もなく、分かりにくい。いつの時点の人数かが明確になるように表記したほうがよいと思います。

(事務局)

承知した。次回の資料はそのようにしたい。

(委員長)

ほかにありませんか。

表や地図など、いろいろな資料がありますが、前回と同じスタイルなので、資料の見方に慣れてきたこともあると思います。後で思いつくようなところも出てくるかもしれませんので、次の機会でも結構ですから、気づいたところはお発言いただきたいと思います。

それでは、本日の協議はこれまでといたします。

以上